



# 特集

# 温泉観光地の 再生に向けて

鬼怒川・川治温泉の取り組み

## 人生いろいろ

日光市が持つ多くの魅力の一つに、市内に豊富にわく温泉があります。藤原地域の鬼怒川・川治温泉は、年間の入湯客数が約二百万人と、全国で第五位を誇ります。しかし、全盛期、平成五年の年間入湯客数三百四十万人から比べると、約百四十万人の減少となっています。

さて、皆さんは旅に何を求めます

か？ その答えは十人十色でしょう。そして、その時の気分や誰と行くかによっても違うのではないのでしょうか。だとすれば、十人の人がいれば、旅は百色にもなるかもしれません。地方の時代といわれる現在、全国各地で地方の「色」を生かした事業を展開しようという動きが活発です。この都市間競争の中、日光市がこれからも愛される「まち」であるために何が必要なのでしょう。

十人百色に應えるのは、容易なことではないかもしれません。でも、「みんなが住みよいまち」であれば、「みんなが訪れたいまち」にもなるはず！  
市内では、まちの活性化のため、多くの方々が日々努力を重ねています。今回はその中でも、鬼怒川・川治温泉にスポットを当ててみました。鬼怒川・川治温泉の「色」を探る旅。さあ、出発しましょう。

## 旅もいろいろ



温泉がある。  
歴史がある。  
心安らぐ旅がある。

## 主な地域再生事業の紹介



### 鬼怒川河川遊歩道整備事業

鬼怒川の美しい景観を望む遊歩道を2か所整備しました(くろがね橋河川遊歩道・大滝河川遊歩道)。温泉街を歩いて回る楽しさを増やし、新たな観光スポットとなっています。



### 遊休地・遊休施設活用事業

温泉街の景観を向上させるため、休業または廃業したホテルの跡地を取得し、整備する事業です。跡地は更地にし、緑化などの園地整備を行います。



### 鬼怒川温泉宝探しイベント事業

温泉街を舞台にした観光客参加型の宝探しイベントです。参加者は温泉街に隠されたヒントや、協力飲食店・物産店の方からのヒントを頼りに謎を解いていきます。



### 案内マップ作成事業

藤原地域の飲食店や物産店などを紹介する案内マップの作成事業です。鬼怒川地区中心のものは、宿泊施設、観光協会などで配布しています。川治以北版は現在、作成中です。



### ホスピタリティ向上事業

お客様をもてなす心「ホスピタリティ」を向上させるため、「おもてなし向上委員会」を組織し、ホテル関係者向けの研修などを実施しています。

## 地域再生事業とは

地域経済の活性化と地域雇用の創造を実現することを目的として、地域再生計画認定制度を創設しました。旧藤原町はこれを受け、「藤原町地域再生計画」を国に申請し、平成16年6月21日に認定されました。この計画は合併後も「日光市藤原地区地域再生計画」として引き継がれ、地域再生推進課が中心となり、さまざまな事業を展開しています。

藤原地区地域再生計画と、都市再生整備計画に基づき、ハード・ソフトの両面から、鬼怒川・川治温泉の再生のために実施される事業です。ハード事業とは、訪れた方が見て触れて鬼怒川・川治温泉が変わったという印象を持ってもらえる事業です。主なものには、鬼怒川温泉駅前広場の整備や、同駅前での鬼怒川・川治温泉観光情報センターの開設などがあります。また、ソフト事業とは、各種イベントの開催や支援、地域懇談会の開催などで、主に、訪れる側と迎える側の心と心をつなぐ事業のことです。

# 歴史を紐解く

江戸時代の発見から、日本有数の温泉地への歩み

## 鬼怒川・川治温泉の発見

昭和初期の鬼怒川温泉街  
まだ数軒の旅館しかありません。

鬼怒川・川治温泉の歴史は、江戸時代にさかのぼります。川治温泉は享保8(1723)年、五十里湖が大雨で決壊した際にわき出たといわれます。鬼怒川温泉は当初、鬼怒川の西岸のみにわき、滝温泉と呼ばれていました。発見の時期は明らかではありませんが、宝暦2(1752)年にはすでに、小規模な温泉休憩所の形で営業が始まっていたという記録が残っています。明治時代に入ると鬼怒川の東側にも温泉が発見され、藤原温泉などと呼ばれました。明治末期から大正にかけて川底から源泉が次々に見つかり、温泉旅館数も増えていきました。滝温泉と藤原温泉を合わせて鬼怒川温泉と呼ぶようになったのは、昭和2年のことです。

## 経営難時代の到来

昭和4年、東武日光線の開通を機に、鬼怒川・川治温泉の観光客数は激増。宿泊施設の数も増え、従業員などの増加によって、藤原地域の人口は爆発的に増えていきました。昭和30年代の高度経済成長期に入ると、旅館やホテルの新築・増築が盛んに行われました。栃木県の調査では、昭和14年には鬼怒川で旅館が10軒、川治で5軒だったのに対し、昭和34年の調査では鬼怒川42軒、川治9軒となっています。昭和後期から平成にかけては、鬼怒川・川治温泉の近くに多くのテーマパークが完成しました。自然美とテーマパークなどの観光施設、そして、今市、日光、足尾、栗山地域が抱える豊富な観光資源を生かし、鬼怒川・川治温泉は日本有数の温泉観光地へと成長していったのです。

バブル景気と呼ばれた1980年代後半から、多くの宿泊施設では大規模な設備投資を行っていききました。人々もより豪華な旅行を求める風潮が強くなり、それに呼応する形でもありました。しかし、1990年代前半にこの景気が終息すると、過剰な設備投資や不景気により旅行を控える動き、また、足利銀行の破たんなどの影響により、経営を悪化させる宿泊施設が相次ぎ、観光産業全体が厳しい局面に立たされました。

## 地域再生計画の認定

こうした地域経済の不振という全国的な問題に対処するため、国は地



地域再生事業により整備された鬼怒川温泉駅前では、龍王祭をはじめ、さまざまな催しが行われます。



# 歴史を受け継ぐ

温かいおもてなしの心。市民の力を生かした誘客に迫る

## 市民発！誘客の提案

観光客が今何を求めているのかを知ることは、誘客のために大切なことの一つです。今回、広報にっこうが実施したアンケート(結果は下段をご覧ください)からも、観光客の声が少し分かります。観光の現場には、こうした観光客の生の声に日々接している人たちがいます。

地域再生推進課では、生の声をその事業に生かすため、「イベント企画コンペ」を実施しました。これは、鬼怒川・川治地区の市民を対象に、鬼怒川・川治温泉を元気にする企画を募集し、採用された企画に、その実施経費の一部を補助するというものです。

ここでは、イベント企画コンペで採用された二つの企画に、中心として関わっている方を二人紹介します。



## 鬼怒太の満腹屋台

一人目に紹介するのは沼尾和孝さん。今年の2月に鬼怒川温泉駅前に、食べ物などを販売する屋台を出しました。屋台の名前は「鬼怒太の満腹屋台」。この企画者で、ホテルの経営者でもある沼尾さんにお話を伺いました。

**\*屋台はどういったきっかけで企画したのですか？**

沼尾和孝さん(以下、沼尾) お客さんが少なくなる冬にできることはないかと思っただけのきっかけです。

昔、鬼怒川にも屋台でそばを売り歩く、夜鳴きそばがあったという話を聞き、この企画を思いつきました。僕が所属する鬼怒川温泉旅館組合青年部のみんなで協議して形にしました。

**\*ユニークな名前ですが、どうしてこの名前にしたのですか？**

沼尾 鬼怒川温泉には鬼怒太という鬼のキャラクターがいるので、これを使わない手はないだろうと思いました。鬼だからきつと大食いかなって(笑)。そこで、超大盛りのそばや鹿汁などを出そうと思っただけです。おなかいっぱい

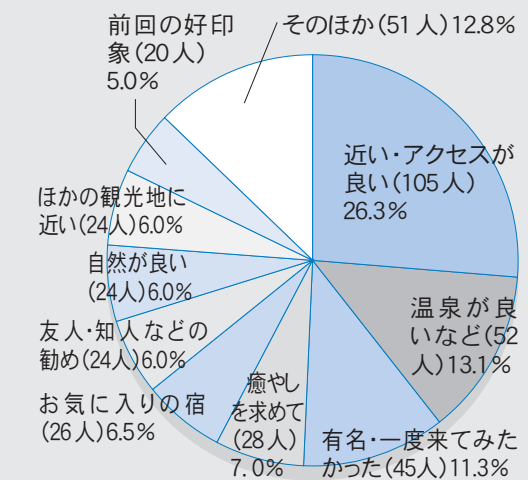


訪れた方のおなかと心を満たす屋台は好評でした。

**沼尾** 地域再生計画にもある「癒やしと福祉の温泉地」もいいと思うし、とにかく独自性を出していくべきだと思います。

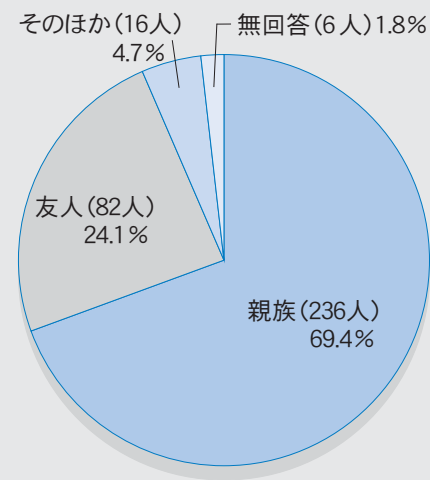
それから、お客さんに何度も来てもらうためには、一般の市民のおもてなしが必要で、ホテル、商店だけの頑張りじゃなく、みんなで温かく迎える姿勢が大切だと思います。

イベントなども、旅館同士の、旅館と商店街、そして、地域のみなが協力していくことを考えていくべきだと思います。特にこれからの鬼怒川温泉を担うのは、今20代、30代の若手です。若手には頑張ってもらい、頑張っている若手の意見をもっと取り入れられるようになってほしい。人を動かすの



**Q** どうして(鬼怒川・川治温泉に)旅行に来ようと思われましたか？(自由回答・複数回答)

夫婦で、家族でといった方が多数いらっしやいました。社員旅行と答えた方は1名でした。



**Q** どなたと一緒にですか？

※グループごとの回答のため、グループ内に県内在住者と県外在住者がいるなどの理由により、総数が項目ごとに異なります。

**観光客の声を聴く**  
広報にっこうでは、鬼怒川・川治温泉に対する観光客の印象などを調べるため、アンケートを実施しました。以下に結果を発表します。

このアンケートは鬼怒川・川治温泉の旅館・ホテルのうち16軒の協力を得て、その宿泊客を対象に行いました。6月中旬から7月中旬の約1か月間に行い、339組(県内在住50組・県外在住292組)の方から回答いただきました。

## 「人を動かすのは人の力だと思えます」



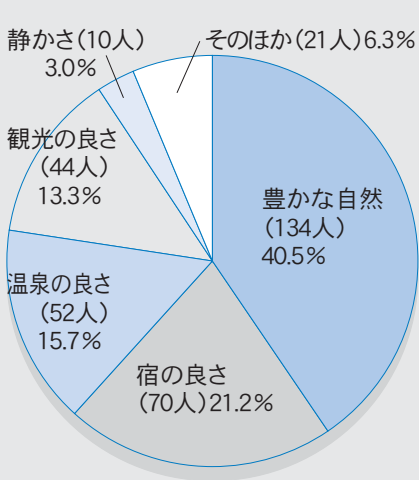
沼尾和孝さん

い食べてもらおうと思って、この名前にしました。  
**\*屋台は継続しますか？ 新たな取り組みの構想はありますか？**  
沼尾 屋台は好評だったので来年も継続する予定です。  
ほかには、オフシーズンにお客さんを迎えるものがないですね。紅葉のころを過ぎるとお客さんは減りますが、夏休みの初期も海に足を運ぶ方が多いので、閑散期といえます。お客さんが増えるのはお盆過ぎです。だから、7月に七夕イベントができればいいかなと思っています。

**\*現在の鬼怒川温泉についてどう思いますか？**

沼尾 ピーク時と比べればお客さんの数は減っています。でも、全国にたくさんのお客さんがいる中、まだまだたくさんの方が来てくれています。それに、特に関東での知名度は高いと思えます。

**\*これからの鬼怒川温泉についてお聞かせください。**  
お客さんへのおもてなしの心。市民の力を生かした誘客に迫る



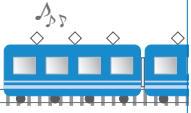
**Q** 最も良い印象に残ったものは？(自由回答・複数回答)

関東近県の方は家から近い、また、電車でも車でも2時間程度で来ることができ、アクセスの良さを挙げていました。



教えて!! 最近の国内旅行事情

(株)JTB 法人営業宇都宮支店長の小針 務 さんに最近の国内旅行事情についてお聞きしました。



昨年度、7～9月の夏期旅行を振り返ると、国内旅行者数は0.8%増と、3期ぶりのプラスとなりました。さらに、旅館の客室稼働率は、62.6%と0.1%の増でした。(財団法人日本交通公社調べ)  
今年度も、景気回復による需要拡大の影響が、夏期旅行にも追い風となるのではないかと予想しています。特に、8～9月の旅行者増を期待しています。  
栃木県における昨年度のJTBの旅行関連販売額は、前年比106%と好調に推移しました。取り扱い宿泊者数も、前年比101%と前年を上回る業績を上げることができました。しかし、最近の旅行の傾向としては、宿泊をせずに日帰りで旅行する「日帰り客」の増加が挙げられます。道の駅やスーパー銭湯などといった、立ち寄り型の施設の健闘がその要因の一つです。  
「日帰り客」が増加傾向にある今、温泉地においては、「滞在型のお客様」をいかに増やしていくかが一つの課題です。JTBも鬼怒川・川治温泉の旅館・ホテルの皆様の懸命な誘客活動を全国にお伝えし、今後も地域の皆様と一緒に取り扱い宿泊客数のさらなる増を目指していきたいと思ひます。



手作りウッドカヌー体験工房では、川治小中学校の子どもたちも製作に参加しました。



イベント企画コンペでは、温泉街を歩く方にも楽しんでもらうため、道路に行灯や吹流しなどを飾る企画なども採用されています。

# 楽

## 「自分たちが楽しめるイベントを作りたい」



田中 祐一さん

### 手作りウッドカヌー

は結局人です。人の力が点から線に、線から面になるように、地域一体となって取り組んでいきたいですね。  
\*ありがとうございました。ご活躍を期待しています。

次に紹介するのは田中祐一さん。川治地区の若者で組織する川治青年振興会の会長として、川治屋台夜祭や、カヌー体験イベント「ゆまにカナディアンカヌーinかわじ」などを手がけています。イベント企画コンペでは、このカヌーイベントで使用するカヌーを、観光客などと一緒に作るという企画、「手作りウッドカヌー体験工房」を提案しました。

\*手作りウッドカヌー体験工房の企画はどのように生まれたのですか?  
田中 祐一さん(以下、田中) カヌー体験イベントが7年目を迎え、楽しみに来てくれる方も増えました。カヌーのイベントは夏に行いますが、オフシーズンにもカヌーに触れてもらいたいと思い、手づくり体験を企画しました。また、既製品ではなく、自分たちが作ったカヌーに乗るといった体験を提供した

\*カヌー以外に新たな取り組みの予定はありますか?  
田中 今ほちよつと秘密なんです(笑)。でも、(川治温泉に)宿泊した方がびっくりするようなものを計画中です。  
\*それは楽しみです。いつごろ実現できそうですか?  
田中 準備品を整えて、2～3年後にはお見せしたいと思っています。  
\*川治温泉の現状、そしてこれからの川治温泉についてお聞かせください。  
田中 川治温泉は山あいの閑静な温泉

かつたんです。

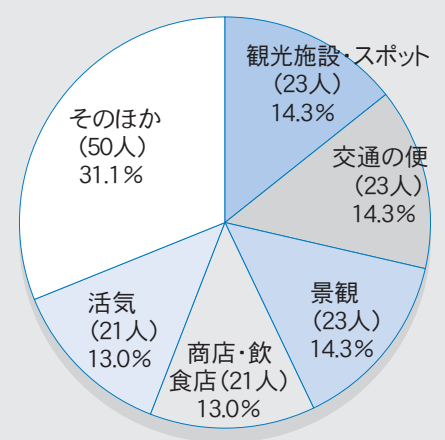
\*この企画を含め、川治青年振興会では多数のイベントを実施していますね。苦勞も多いのではないですか?  
田中 青年振興会ではカヌー以外に、5月に国道沿いにミニこいのぼりを飾り付ける催しや、8月の川治屋台夜祭各種イベントの際の舞台設営なども行っています。イベントを誰かにすべて任せてしまつたのではなく、準備から後片付けまで参加することで、心がこもつたものができると思っています。

イベントはまず、自分たちが楽しめるものでなければならぬという思いを、会員みんなが持っています。  
会員は現在20名ほどで、そのほとんどが昼間に仕事をしています。ですから夜にしか集まることできません。でも、イベント時や一緒に食事をしながらなど、コミュニケーションは図れています。普段の何気ない会話からアイデアが飛び出すこともありますよ。  
\*カヌーを作ったお客さんの反応はどのようなものでしたか?  
田中 手づくりカヌーの工房は温泉街の通り沿いにあるので、たくさんのお客の方が興味を持って見に来てくれました。カヌーのイベントを知らない方にも、カヌーの板を張る体験などに参加してもらうことができ、よいPRになりました。(体験した人に)「おもしろかった」と言ってもらえましたよ。

地です。自然と旅館・ホテルなど良い意味で大き過ぎず、まとまっています。そして、まとまっているという表現は、まちの大きさや景観だけじゃなくて、旅館・ホテルや地域の人も当てはまると思います。みんなが協力的です。だから、我々(川治青年振興会)が企画したこともすべに受け入れてくれます。旅館・ホテル、地域の方たちの協力が整っているんです。まとまっているから、相乗効果でいい意見も出てきますよ。  
川治温泉の魅力は、自然や温泉、宿泊施設が程よいスケールでまとまっている「箱庭」のような美しさです。この特徴を生かして、今後も地域一体となって盛り上げていきたいですね。  
\*ありがとうございました。川治青年振興会の皆さんの楽しいイベントを、今後も楽しみにしています。

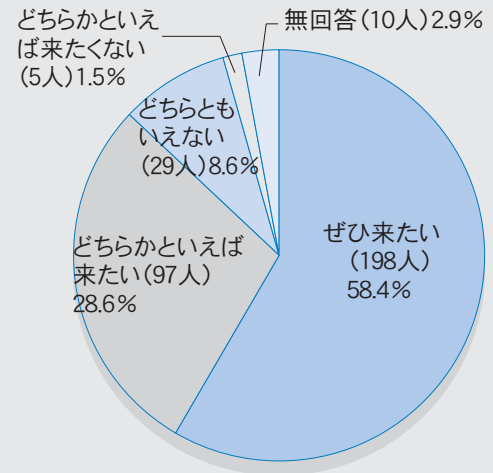
豊かな自然を挙げた方が最も多く、次いで宿の施設や食事、サービスなどが挙げられました。その後温泉の良さが続きます。これらを総合して、「宿の露天風呂からの川の眺めの良さ」が印象深いという回答も多く見られました。

Q 鬼怒川・川治温泉の「ここが良くなれば」と思う部分は? (自由回答・複数回答)



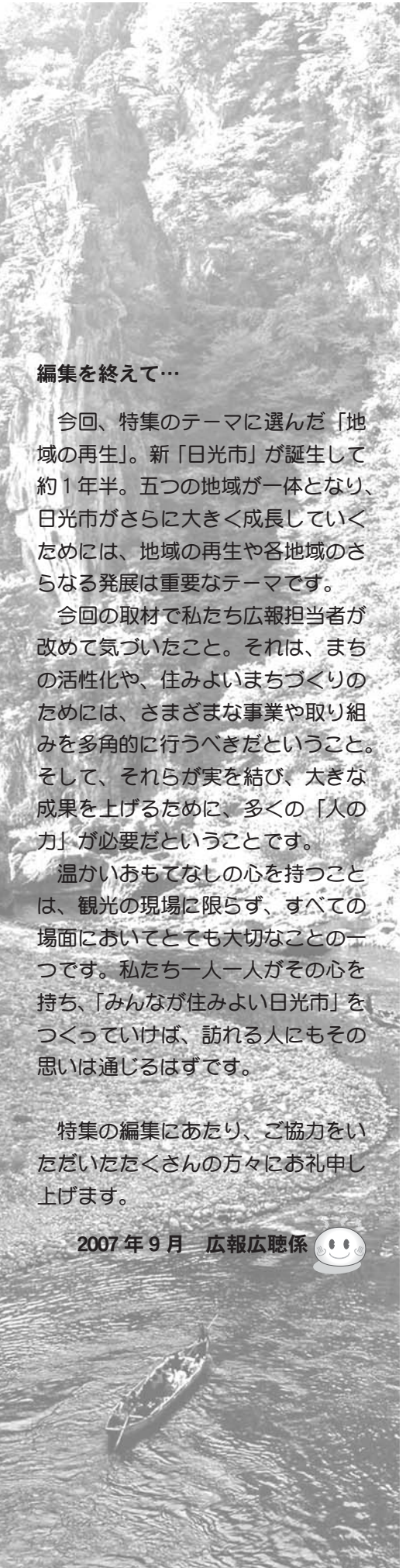
観光施設や観光スポットに対しては、その質や料金などに対する意見のほか、梅雨時の調査のため、雨天でも楽しめる施設を望む声がありました。  
旅行の決め手でトップの交通の便が、ここでも最も多くの回答を集めました。これは主に、東武鉄道の特急の増加を歓迎しつつも、快速電車などの減少は不満だという理由です。また、温泉街を行き来する手段の新設や増加も望まれています。  
今のままが良いという意見もありました。その理由は、これ以上開発をせず、豊かな自然を残してほしいというものでした。

Q 鬼怒川・川治温泉にまた来たいと思ひますか?



ぜひ来たいの理由としては、宿の設備や接客、食事が良い。近い、アクセスが良い。のんびりできる、落ち着ける。自然景観が良い、癒やされる。温泉が良いなどがありました。どちらかといえば来たいを合わせると、87%の方々が来たいと答えています。  
二度と来たくないと思ひた方はいませんでした。どちらかといえば来たくない、どちらともいえないと答えた方は10・1%。観光スポットに対する不満や、道路の整備を望む声、





編集を終えて…

今回、特集のテーマに選んだ「地域の再生」。新「日光市」が誕生して約1年半。五つの地域が一体となり、日光市がさらに大きく成長していくためには、地域の再生や各地域のさらなる発展は重要なテーマです。

今回の取材で私たち広報担当者が改めて気づいたこと。それは、まちの活性化や、住みよいまちづくりのためには、さまざまな事業や取り組みを多角的に行うべきだということ。そして、それらが実を結び、大きな成果を上げるために、多くの「人の力」が必要だということです。

温かいおもてなしの心を持つことは、観光の現場に限らず、すべての場面においてとても大切なことの一つです。私たち一人一人がその心を持ち、「みんなが住みよい日光市」をつくっていけば、訪れる人にもその思いは通じるはずですよ。

特集の編集にあたり、ご協力をいただいたたくさんの方々にお礼申し上げます。

2007年9月 広報広聴係



これからの鬼怒川・川治温泉「日光市」として新たな出発

観光協会会長に聞く

鬼怒川・川治温泉の現状とこれからの方向性について、鬼怒川・川治温泉観光協会の会長、八木澤勝久さんにお話を伺いました。

八木澤さんは鬼怒川温泉地区で観光物産・飲食店を経営する傍ら、昨年5月から観光協会の会長を務めています。まず、鬼怒川・川治温泉の現状をこう話してくれました。

「減少した宿泊客数をいかにして回復させるか、それが今抱えている課題です。とはいえ、鬼怒川温泉駅前の整備や、JR新宿駅から鬼怒川温泉駅を結ぶ直通特急列車の運行開始によって、宿泊客数は徐々に回復しつつあります。もちろん、施設の改修やサービスの向上など、旅館・ホテルの絶え間ない努力の結果もあるでしょう。全国的に温泉地の観光

客数が減っている中、鬼怒川・川治温泉は健闘していると思いますね。」

鬼怒川・川治温泉観光協会では大勢の観光客に来てもらうため、さまざまな努力をしています。八木澤さんに、現在行っている取り組みを挙げていただきました。「特に、イベントには力を入れています。年間を通して数多くのイベントを開催するほか、地元の商店会や町内会などが主催するイベントの支援も行っています。(今回の)アンケート調査の結果を見ると、雨天でも楽しめる施設を望む声がありました。それは私も同感です。例えば、鬼怒川温泉駅前のイベントステージに屋根があれば、雨の日でもイベントが開催できるし、多くの人が楽しめると思います。」

首都圏の大きな駅での広報活動や、観光協会ホームページの運営にも力を入れています。さらに、観光案内業務も人を増やすなどして強化させていく予定です。」

鬼怒川・川治温泉の将来像を「ぬくもりのある温泉地」と描く八木澤さん。最後にこう話してくれました。「施設や景観の整備も必要ですが、お客さまに満喫していただくためには、おもてなしの心が何よりも大切です。観光業に携わるすべての人がおもてなしの心を持ってお客さまに接する、それが『ぬくもりのある温泉地』につながると思います。」

鬼怒川・川治温泉の再生は、私たち一人一人ができる地域再生への第一歩なのではないでしょうか。

「ぬくもりのある温泉地」を目指しています。

鬼怒川・川治温泉観光協会 会長 八木澤 勝久 さん



てくれた八木澤さん。この思いは観光に携わる方すべてに共通したものではないでしょうか。これからも鬼怒川・川治温泉の観光をけん引して行ってください。

心に刻まれる温泉地へ

一泊二日の温泉旅行。疲れを癒やしてさあ帰ろう…というとき、道端に捨てられたごみを見つけてがつか

りする。入った公衆トイレが汚れていて嫌な思いをする。こんなことがあるかもしれません。

一口に観光といっても、その幅はとても広いもの。観光業に携わる人もさまざまです。宿泊施設、物産店、観光施設のほか、交通機関や飲食店など、毎日多くの方々、観光客と触れ合う仕事をしています。こうした方々が日々重ねてきた「温かいおもてなし」が、愛される観光地を作ってきました。私たちはこれから、この歴史を受け継ぎ、新たな歴史を築いていかなければなりません。

旅する人の心に、癒やしの温泉地として刻まれる鬼怒川・川治温泉にするために。そして、日光市がこれからも愛される観光地であり続けるために…。観光業に直接携わる方もそれ以外の方も、みんなが「温かいおもてなしの心」を持つこと。こ

わりの

多くの観光資源を抱える日光市には、毎日、たくさんの方々が観光客として訪れる目的でやって来ます。その観光客に少しでも良い印象を持ってもらえるよう、たくさんの方が努力しています。

この努力は、誇るべき観光資源を、訪れる人たちと分かち合いたい。もつと多くの人に日光の素晴らしさに触れてもらいたい。そうした「ふるさとへの愛」に支えられているのではないのでしょうか。

日光市はこれからもこの愛を支え、また支えられ、一歩ずつ進んでいきます。